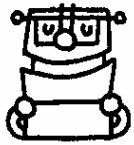


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

## うがいするとき、水がのどから下に入らないのはなぜ



ものを飲みこむには、舌がのどに送りこむなどはたらきをしないと、できないようになっているからさ。

水を飲むとき、体の中は、どんなふう活動しているのでしょうか。

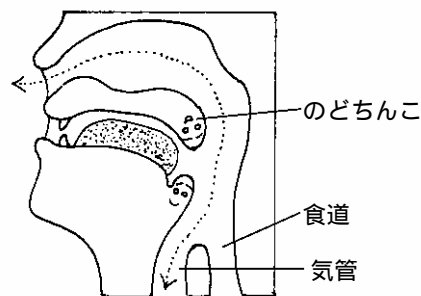
水を飲もうと思って、水を口に入れると、まず、舌が動いて水をのどに送りこみます。次に、のどのところで、水が鼻のほうに入らないよう「のどちんこ」がふたをし、気管のほうに入らないように、<sup>きんにく</sup>筋肉や<sup>こつ</sup>なん骨がはたらいて気管の入り口にふたをします。すると、食道のほうの口が開き、食道が、いもむしがはうときのような動きをして、水を胃に送りこみます。これでやっと、水は胃に入ります。

うがい水は、飲んではいけないと思ってうがいしているので、たくさん口にふくみすぎて、のどのおくまで水がいかないかぎり、のどの下にはいかないのです。

### 気管に水や食べ物が入らないようになっている

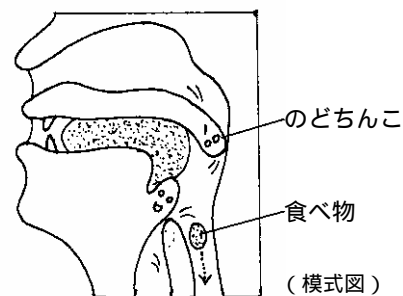
気管や<sup>はい</sup>肺に空気以外のものが入ると大変です。そのため、ものを飲みこむときは、気管がとじるようになっていますが、たまに、ふたをするのが間に合わず、水などが入ると、むせたり、せきが出たりして、気管に入ったものを、外に出すように体がはたらきます。つばの出方がへって、ものが飲みこめなくなる病気もあり、食べ物を飲みこむことも、かんたんなことではないことがわかります。

<息をしているときののど>



鼻とのどがつながっている

<ものを飲みこんだときののど>



鼻の間と、気管の口がふさがる